

ウクライナ危機の原油マーケットを読む ～2022年2月～ 横山 泰史

業種:日本株ストラテジー

コロナ危機により供給を上回る需要が続く

ウクライナ危機の高まりにより、原油供給の懸念が高まり、WTI原油は100ドル突破が視野に入ってきた。現地23日の米国市場ではWTI原油は前日比+0.19%の92.10ドルで終えた。振り返ってみると、WTI原油価格は新型コロナの感染拡大を背景に、原油需要の大幅減少への懸念から2020年前半には20ドルを下回る水準にまで下落した。この局面で、OPECプラス(OPECと非OPEC加盟国により構成)を中心に、供給量(生産量)の大幅削減で対応した。この作戦は奏功し、WTI原油価格は値を戻すこととなったが、問題は需要回復が想定以上に強く、供給を上回る状況が続いていることである。現在の世界的な原油の供給不足に対し、OPECプラスの回答は段階的な供給増加に留まり、原油高を解決する根本的な対処策には至っていない。そして、米国の商業用原油の在庫も少なくなっている。このため、WTI原油価格は高値に張り付き、ウクライナ危機が重なったことによって、WTI原油は100ドルが視野に入る展開となった。

視野に入る 100ドル超え

原油市場にコロナ危機がもたらしたものは、需要を下回る供給である。原油高を歓迎したいOPECプラスとしては、少しずつ、段階的に生産量を増加させることには同意しても、供給量を一気に増加することには及び腰であろう。このため、世界がコロナ危機を乗り越え、人の移動が活発となる春先にはWTI原油価格は100ドル超えも視野に入るであろう。一方で、段階的なOPECプラスの生産量の増加、米国から原油禁輸の制裁が課されていたイランに対する制裁解除の動き、非OPECプラスの生産活発化により、今年の夏あたりには世界の原油の需給が逆転する可能性も否定できない。こうなった場合、原油価格は年末に向けて60～70ドル台に低下することも想定される。現時点のメインシナリオとしては、WTI原油価格は春に100ドル程度、今年末に60～70ドルを想定している。米国のガソリン価格は今年2月には2021年1月と比較して約1.5倍に値上がりした。原油など資源価格の高騰は物価の上昇によるインフレをもたらす。自動車社会である米国ではガソリン価格の上昇は国民の不満を高めるといえるが、世界経済にとって原油高によるインフレ慢性化による景気の減速は、何としても避けたいところであろう。

東京市場マーケットデータ

2022/2/22 現在

| | |
|------------|------------|
| 日経平均 | 2万6449円 |
| 東証1部売買代金 | 2兆7093億円 |
| 時価総額 | 685兆9106億円 |
| 日経平均予想 PER | 13.2倍 |
| 日経平均 PBR | 1.2倍 |
| 日経平均配当利回り | 2.3% |

出所: Quick

日経平均パフォーマンス

| | | |
|-------|---------|------------|
| 昨年来高値 | 3万795円 | 2021年9月14日 |
| 昨年来安値 | 2万6044円 | 2022年1月27日 |

出所: Quick

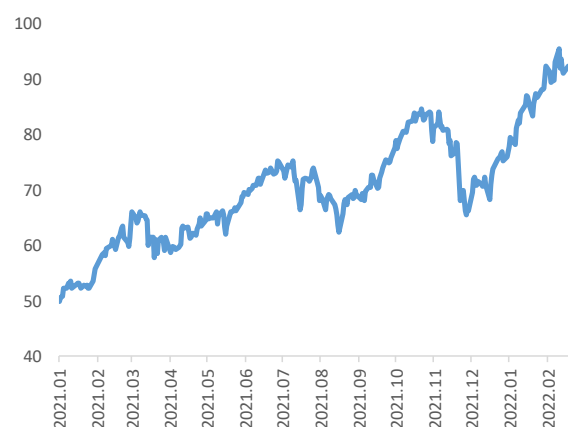
国内株式売買代金ランキング

2022/2/22 現在

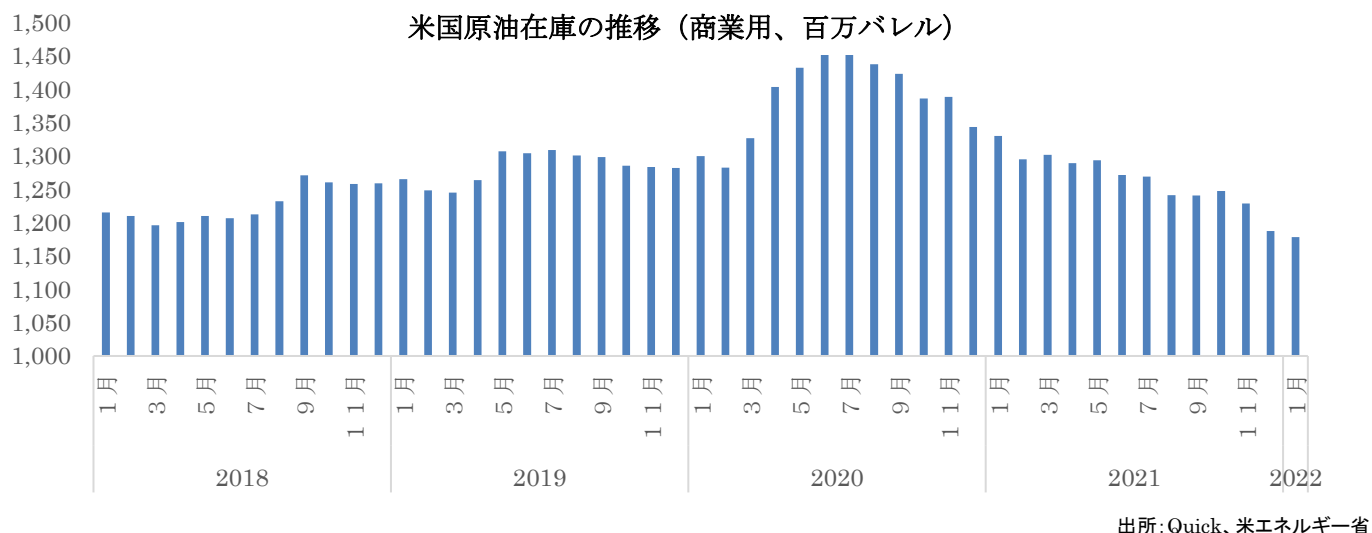
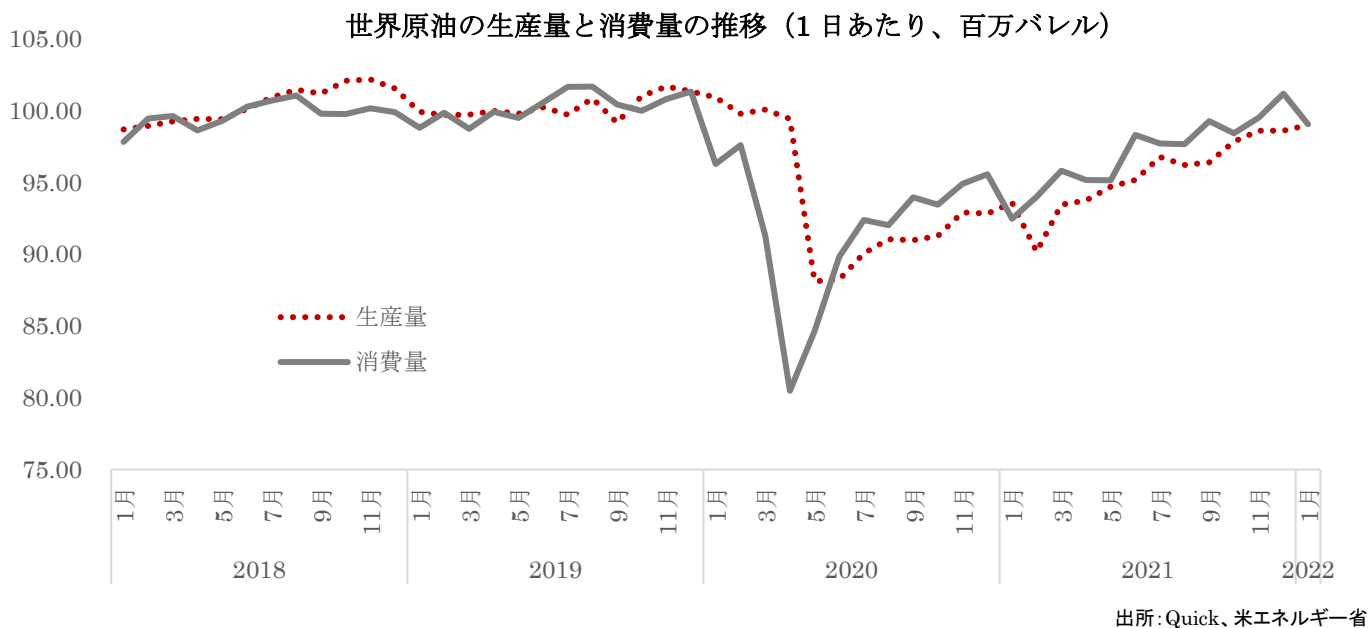
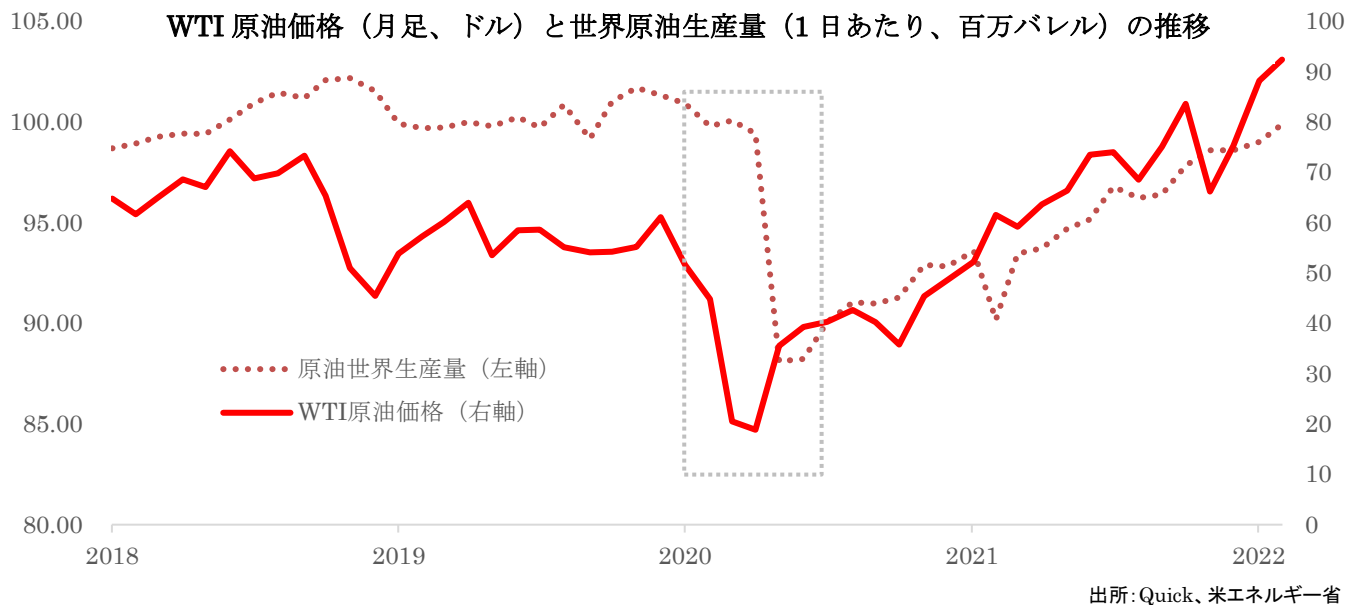
| | 株価前日比 |
|--------------|-------|
| 1 レーザーテック | ▼3.3% |
| 2 日本郵船 | ▼4.0% |
| 3 ソフトバンクグループ | ▼0.1% |
| 4 東京エレクトロン | ▼4.0% |
| 5 川崎汽船 | ▼6.9% |
| 6 商船三井 | ▼4.1% |
| 7 ソニーグループ | ▼2.6% |
| 8 トヨタ | ▼2.2% |
| 9 三菱 UFJFG | ▼1.2% |
| 10 第一三共 | 9.5% |

出所: Quick、アイザワ証券作成

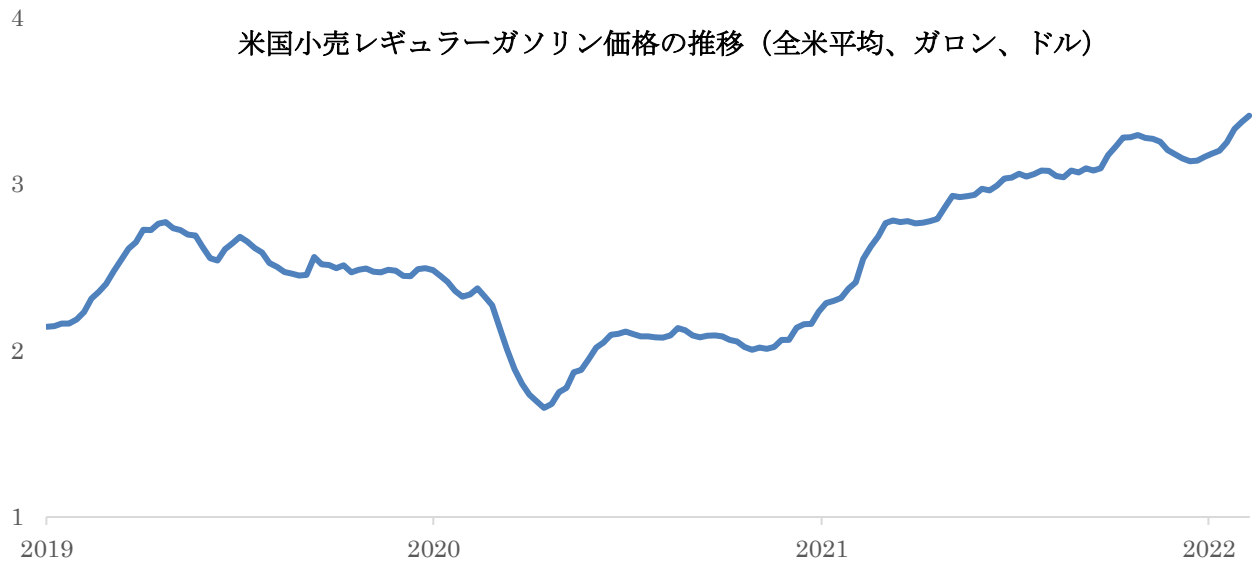
WTI原油価格の推移(ドル)



出所: Quick



本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の終わりに記載させていただきました。



出所: 米エネルギー省

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3283 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

株式の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

国内株式は、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大 1,650 円

コールセンター発注 約定代金が 55 万円以下の場合 1,650 円、

約定代金が 55 万円超 3,000 万円以下の場合 3,300 円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

